

令和4年度		学力創造プラン	日野第七小学校	第4学年
教科	児童の実態・課題		改善へ向けて	
国語	・段落相互の関係・内容のとらえ方が不十分である。		○中心となる語や文、段落相互の関係を押さえて、内容を的確にとらえられるようにする。また、学習計画を立てて単元の見通しをもたせ、課題や目的意識をもたせることで、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。	
社会	・実体験をもとにした学習については定着が見られるが、それを踏まえた発展的内容について応用することが難しい。		○授業において、既習の知識を意識的に取り入れることで、知識の定着を確実にし、物事を関連付けて考える力を高める。	
算数	・文章から場面や条件を正しく読み取ることが難しい。 ・図形の作成、除法の商の立て方が難しい。		○文章から場面を想起させるために、図式化したり、説明を加えたりし、書かれている内容を理解できるようにする。 ○端末を普段の授業だけでなく、家庭学習でも活用し、類似した問題を繰り返し練習することで理解を深めていくようにする。	
理科	・予想と照らし合わせて、観察や実験の結果から科学的事象について考えること（考察）は得意としている。 ・身近な自然の変化について観察する際、観察の比較で視点が明確でなくなってしまうことがある。 ・地域とのつながりの中で学習をする機会が少なく、本物に触れる機会がないため、なぜそうなるのかという事象への思考が弱い。		○話し合いの工夫を取り入れ、自他の考えを比較して考えられるようにし、思考を伸ばすようにする。 ○何が、どのように、どうなったかを明確にするよう指導し、気付いたことを記録させる場面を設け、変化がわかるようにする工夫を取り入れる。 ○地域で活躍する自然ボランティアの方々に話を聞いたり、地域の自然に親しんだりすることを通して、本物に触れ、感じたことを表現できるようにしていく。	
音楽	・拍の流れによって一定のリズムを刻んで演奏したり、互いの楽器の音や伴奏を聴きながら音を合わせて演奏したりすることが苦手である。		○常時活動でリズム打ちをしたり、体を動かしながら音楽を感じる時間を多く取り入れたりとすることで、拍の感覚をつかませる。 ○ペアやグループで互いの音を聴き合う活動を増やし、聴き合う習慣を付ける。	
図画工作	・想像することや発想することに苦手意識をもっている児童がいる。 ・用具や道具の扱いに個人差がある。		○導入時に自分たちの想像したことを発表したり、質問したりしながら、考えを深める時間をつくる。 ○様々な用具や道具に触れることができるよう年間指導計画に沿って、計画していく。使い方をchromebookで提示するなど、視覚的に理解できるようにする。	
体育	・意欲的に運動をする児童が多く、運動を通して友達との関わりを楽しんでいる場面が見られる。		○投げる運動では、投げ方の基本を外部講師から教わったことをもとに、ゲーム感覚を取り入れながら、指導していく。握る運動では、体づくり	

	・柔軟性は高いが、投げたり握ったりする運動に関しては能力が少し低いように感じている。	運動をもとに、楽しく動く感覚を身に付ける動作を取り入れながら、握る経験を増やすようにする。
特別の教科 道徳	・自分の考えや思いを伝えることはできるが、自分の考えと他人の考えを比較し、深く考えることが不得手である。	○他人の考えに対して感じた疑問を質問し、物事を多面的多角的にとらえる心と態度を養える話合いを取り入れる。
外国語活動	・英語を話したり、自分のことを表現したりすることに対して、苦手意識や抵抗感がある。	○歌やゲームなどを通して英語の音声に触れる機会を増やし、楽しく取り組みながら表現を身に付けられるようにする。
総合的な 学習の時間	・バリアフリーの存在や必要性について、日常生活の中で気付く機会が少ない。 ・地域との関わりについて、交流が少なくなっていることから、身近なものとして深く考える機会が少なくなっている。	・日々の生活の中で、何に気付かせ、どのような意味があるのかを課題にし、調べ学習を通して得た知識や考えをアウトプットできるようにする。 ○学習課題である地域の防災学習など、資料を活用して、自分の住んでいる地域に感心をもたせ、地域の良さに気付かせるようにする。
特別活動	・自己の意見をしっかりもっているが、他の意見を受け入れることが苦手である。	○係や当番活動に参加する中で、話し合う場面を多く設定し、友達と協力することの大切さや良さに気付かせるようにしていく。